

許ニシテ蓋シ一人ニテ歸家セルナラント

主治醫●●●ハ三日午前一時三十分頃診察セリ當時被

害者ハ問診スルモ應答ナク脈至七十躰温三十六度二分

呼吸異狀ナシ右側ノ上下肢ハ運動スルモ左側ノ上下肢

ハ毫モ運動スルナク瞳孔ハ左右共ニ散大シ殊ニ右側ニ

於テ著シ受傷所ハ單ニ腫脹セルノミニシテ赤色ヲ呈セ

ルハ天明后ナリト云フ

丙 說明

其一 第五條ノ損傷ハ鈍体ヲ以テ強劇ニ毆打セラレタル

ニ起因ス骨傷ノ有無ハ判然タラスト雖モ第六第七兩條

ノ症候ハ共ニ此損傷ノ結果ニ外ナラス

其二 第二條ノ呼吸脈搏ノ狀態及ヒ第三條ノ症候ハ共ニ

頭腔内出血ノ徵候トス又右瞳孔散大シ左上下肢運動シ

能ハサルハ右側ノ頭腔内ニ出血セルノ徵候ナリ蓋シ神

經纖維ノ頭蓋腔内ヲ出ツルヤ左右相交又ス是レ頭部顔

面ハ出血側ニ變化ヲ呈スルモ軀軀及ヒ四肢ニ於テハ反

對側ニ變化ヲ呈スル所以ナリ

其三 參考人ノ陳述ニ據レハ被害者ハ受傷後二町許ヲ行

歩シ且ツ歸家後少時間ハ談話ヲナセリト之レ受傷後直

チニ頭腔内ニ出血スルモ其量多カラザルヲ以テ行歩及

ヒ談話ヲナシ得タリト雖モ漸次出血ノ量増加スルニ從

ヒ言語及ヒ左上下肢ノ運動障害ヲ來タセシモノト認ム

丁 鑑定

以上說明セル理由ニヨリ

一 ○○○○ハ鈍体ヲ以テ右耳輪ノ上部ヲ強劇ニ毆打

セラレシ爲メニ右側ノ頭腔内ニ出血ヲ來タセルモノ

ナリ

二 該頭蓋腔内出血ハ頗ル重症ニシテ豫後ハ今日斷言

スルヲ能ハザルモ恐ク生命上不良ノ結果ヲ來タサン

右及鑑定候也

縣立千葉病院司療醫

明治廿六年七月四日

森 理 記

鑑定書(二)

●●●ガ毆打創傷被告事件ニ付明治二十六年七月八



日午前八時四十分千葉縣千葉町縣立千葉病院病理解剖室  
ニ於テ千葉地方裁判所豫審判事(●)(●)(●)同裁判所書記×  
×××立會ノ上被害者○○○○ノ死躰ヲ檢シ其死因ヲ鑑  
定スルヲ左ノ如シ

甲 外部所見

第壹條 死躰ヲ解剖臺上ニ載セ之ヲ檢スルニ齡四十三歲  
許ノ躰格榮養共ニ中等ナル男性死躰ニシテ全身強直シ  
死體ノ低位ヲ取リシ部殊ニ背面ニ於テ紫紅色ノ死斑ヲ  
現ハス而ノ死體ハ腹部左右綠色ヲ現ハシ正ニ腐敗ヲ始  
メントス

第二條 頭部毛髮ハ散髮ニシテ其中央ヨリ前方ハ殊ニ短  
ク切斷セラシ左ノ變狀ヲ認ム

(イ) 右耳殼上鶏卵大ノ部少シク腫脹シ變色ナクシ  
テ觸診スルニ僅ニ波動ヲ感ス

(ロ) 前上腫脹部ノ上方ニ豌豆大ノ橢圓形ヲ呈スル  
紫色斑一箇ヲ認ム

第三條 顔面ヲ檢スルニ兩眼閉鎖シ眼窠陷沒ス眼瞼ヲ開

檢スルニ右眼ハ瞳孔散大スルノ他異狀ナク左眼ハ瞳孔  
散大シ角膜ニ潰瘍ヲ現ハシ其形橢圓形ニシテ幅〇、  
三仙迷長サ〇、五仙迷ヲ有シ帶黃灰白色ヲ呈ス口唇ハ  
哆開シ齒牙ヲ現ハシ舌ハ其内ニ在リ鼻孔耳竅共ニ異狀  
ナシ

第四條 頸部、胸部、腹部、背面、生殖器及ヒ四肢共ニ  
異狀ヲ認メズ

乙 内部所見

第五條 第二條(イ)部ヲ切開スルニ皮下溢血甚タシク延  
テ顛顚筋ニ達シ全顛顚筋血液ニ依リテ浸潤セララル同條  
(ロ)部ヲ切開スルニ同シク皮下溢血アリ

第六條 式ニ依リ頭蓋軟部ヲ切開スルニ皮下溢血著シク  
皮膚ヲ前後ニ翻轉スルニ該溢血前ハ前頭ニ達シ後ハ後  
頭ニ及ブ特ニ第二條(イ)及ヒ(ロ)部ニ於テ甚タシ

第七條 右顛顚骨鱗狀部ノ上方右顛顚骨ニ接スル部ニ於  
テ少シク前方ニ偏シ長徑ニ仙迷橫徑壹仙迷餘ヲ有スル  
橢圓形ノ陷凹部アリ該陷凹部ノ上境ニ骨破裂ヲ呈シ

該破裂ハ前後ニ波及ス其前方ニ行クモノハ蝴蝶骨大翼ノ外面ニ及ヒ長サ四仙迷ヲ算ス其尖端ハ下方ニ彎曲シテ壹、五仙迷ヲ有ス其後方ニ行クモノハ右顱頂骨結節ノ下方ニ向ヒ長サ四、五仙迷ヲ有シ分レテ上下ノ二枝トナリ下枝ハ弓形ニ彎曲シテ外聽道口ノ上方ヲ超テ額骨突起ノ起根部ニ達ス長サ八、五仙迷、上枝ハ四、五仙迷前方ニ向ヒ再ヒ二枝トナリ其前方ニ向フ者ハ前頭骨右前頭結節ニ向ヒ長サ六、五仙迷ヲ有ス一枝ハ左前方ノ方向ヲ取り長サ八、五仙迷ヲ有シ前頭骨左上部ニ於テ分レテ二枝トナル其一枝ハ前方ニ向ヒ二、五仙迷ヲ有シ他ノ一枝ハ後左方ニ向ヒ左顱頂骨ニ達シ五仙迷ノ長サヲ有ス(左ニ略圖ヲ示ス)

第八條 頭蓋骨ヲ鋸斷シ之ヲ剝離スルニ頭蓋ノ中央ニ於テ僅ニ硬腦膜ト癒着スルノ他ハ容易ニ剝離スルヲ得

第九條 外部所見第二條(イ)及ヒ(ロ)部ニ該當スル硬腦膜上ニ於テ凡ソ手拳大ノ暗紅色爹兒様ノ血液凝塊ヲ認メ其量百三十瓦ヲ有ス腦膜及ヒ腦質ハ之レガ爲メ壓陷

セラル

第十條 硬腦膜ハ一般ニ溷濁充血シ軟腦膜モ一般ニ充血ス

第十一條 大腦表面一般ニ充血シ之ヲ切開スルニ右顱額

葉ノ上部灰白質ニ於テ小豆大ノ出血點二三箇ヲ認メ帽

針尖大ヨリ帽針頭大ニ至ル出血點數多散在ス前頭葉及

ヒ右顱頂葉下部ノ灰白質ニ於テ數多ノ出血小點ヲ認ム

第十二條 腦室、腦底、小腦等異狀ヲ認メス

第十三條 爾他身軀各部異狀ナキヲ認ムルヲ以テ剖檢セ

ス

丙 說明

第一款 外部所見第三條左眼角膜ノ潰瘍ハ生前慢性角膜

炎症ニ罹リタルモノニシテ死因ニ關係ナキモノトス

第二款 外部所見第二條(イ)及ヒ(ロ)内部所見第五條第六

條及ヒ第七條ハ強劇ニ鈍硬体ノ作用セルニ起因スルモ

ノニシテ爲メニ右中硬腦膜動脈ヲ破綻シ内部所見第九

條ノ出血ヲ來タシ又腦質小血管ノ破綻ニヨリ内部所見

第十一條ノ出血点ヲ現ハスモノトス而シテ該中硬腦膜動

脈出血ハ腦ヲ壓迫シテ死因トナルニ足ルベキ者トス

第三款 内部所見第十條及ヒ第十一條ノ各濁濁充血ハ損

傷ノ結果ニヨルモノトス

丁 鑑定

一 〇〇〇〇ハ説明第二款頭蓋ノ損傷ニ起因スル腦出

血ノ爲メ致命シタル者ト認ム

右及鑑定候也

縣立千葉病院司療醫長

明治二十六年七月十六日

荻生 錄造 印

杏 壇 叢 話

◎ 實地醫ノ化學的机 (續)

會 員 堀 井 宗 一

「インヂカン」ハ酸化「インドール」ノ硫酸化合物トナリテ  
尿中ニ來ル者ニシテ蛋白質ノ腐敗産物トシテ腸内ニ産生  
ス故ニ尿中ニ多量ノ「インヂカン」ヲ含有スルトキハ腸内

腐敗現象ノ旺盛ナルカ或ハ腐敗産物ノ吸収強盛ナルヲ示  
スモノナリ (腐敗性化膿、胃腸内容物ノ分解、腸管閉塞  
等)

本者ノ試験ハ酸化「インドール」ノ硫酸化合物ヲ濃厚鹽酸  
ニヨリ分離シ其分離シタル酸化「インドール」ヲ「インジ  
コ」ニ酸化セシムルニアリ此目的ニ使用スル試薬ハ一滴  
ノシヤベル氏液(酸化ニ用フ)ト大約二十立方cmノ鹽酸ヨ  
リ成ル混合液ナリ(「エーテル」硫酸ヲ分離スル爲メニ)此  
液ヲ注意ノ検査スベキ尿ニ加ヘ振盪スルニ尿中「インヂ  
カン」ヲ含有スレバ其尿ハ青色ヲ呈スル者ナリ又此ノ檢  
査法ハ左ノ如クスルモ可ナリ乃可檢尿ニ同量ノ鹽酸ヲ加  
ヘ注意シテ一二滴ノ二倍ニ稀釋シタル鹽化石灰ヲ注加ス  
此際鹽化石灰液ハ多量ニ注加スベカラズ腸管内「インド  
ール」ノ發生甚クシテ尿中ニ排泄セラル、量多キキハ  
此ノ際尿ハ既ニ「インジコ」碧色ヲ呈スル者ナリ  
此他一定ノ疾患ニ向ヒ稱用セラル、尿反應アリ左ニ記載  
スベシ